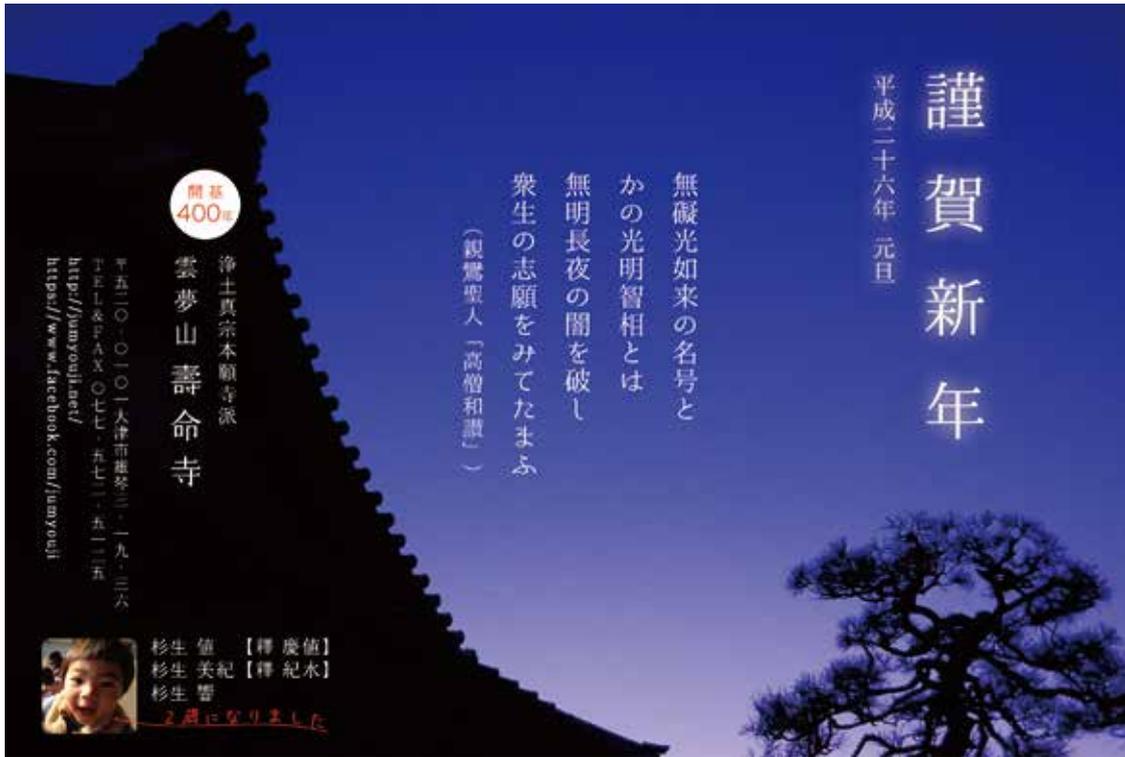


無量壽

第八号(平成二十六年1月号)
発行 雲夢山壽命寺



連載
第1回

寿命寺の未来、雄琴の未来

開基400年。寿命寺と雄琴のこれから。

寿命寺は今年、開基四百年を迎えます。日本に数多あるお寺に比べればそれ程古いわけではありません。でも諸行無常のこの世にあって、一つの施設・組織が四百年もの間維持されてきたという事は、やはり大変なことです。

それだけの間存在し続けてきたという事は、寿命寺が雄琴の人たちにとって必要なものだったからでしょう。本堂に集い共に念仏を唱えることで地域の仲間と繋がる。またお浄土の世界を頂くことで先祖と繋がる。地帯のため、また一人ひとりの人生のため、そのような営みが最も大切なことであると、先人は大変な苦勞をしながらこのお寺を私たちに繋いでくださったのだと思います。

では、この先もずっと寿命寺は人々に必要とされるお寺として存続していくことができるでしょうか。それを考える参考に、住職の職場の上司の住む地域の、去年の出来事をご紹介します。



右余間の阿弥陀如来絵像の裏書。「慶長19年正月16日」とある。

九月の台風十八号で地域のお寺が土砂崩れによって全壊しました。平安初期の建立とされる天台宗の古刹です。お寺は地域の二十戸程の集落の人々によつて護られてきましたが、再建するには億単位のお金が必要です。それでもずっとご先祖が受け継いできたお寺、何とか再建できないかと喧々囂々の議論を重ねたそうです。

しかし結論は再建断念。決め手は住民の一人が示した集落の人口シミュレーションでした。それによると子がない、あるいは都会に出て帰って来ないなどの理由で跡取りのない家が増え、二十年后には集落の戸数が現在の半分近くにまで減ってしまうということでした。今無理をして再建しても、二十年后には支えきれなくなる。だからもう再建しないでおこうということになってしまったのです。

一見台風被害でお寺がなくなつてしまった話のようですが、この地区は過疎化が進んでいて、二十年后には「限界集落」に近い状況に陥るといって、現実を、台風によって目の当たりにさせられたということなのです。言うま



一見台風被害でお寺がなくなつてしまった話のようですが、この地区は過疎化が進んでいて、二十年后には「限界集落」に近い状況に陥るといって、現実を、台風によって目の当たりにさせられたということなのです。言うま

平成二十六年度 年忌 繰出

でもなくお寺はそれを必要とし、支える人がいて初めて成り立ちます。地域社会が成立しなければお寺も存在できないのです。

では、この話を雄琴や寿命寺に当ててみたらどうでしょう。雄琴は宅地開発が進んでいて一見過疎とは無縁のようです。しかしそうした家々の殆どは寿命寺と関わりがありません。お寺を古くから支えてきた門徒集落に限ってみれば跡取りがいらつしやらない所も増えており、過疎とまでは行かなくとも、集落自体が縮小傾向にあります。これは取りも直さず、お寺を支える家や人が減っていくということなのです。

さらに人々の意識はどうでしょうか。社会全体の傾向として宗教に対する理解が低くなってきている中、先人の意思を受け継ぎ、お寺を大切にしたいと考えてくださる方は果たしてどれ位いてくださるのでしょうか。特に次の世代はお寺を支える家・人が減ります。

それでも大切にしなければならぬと認識してくださる方はどれくらいでしょうか。

このようにして見てみると、寿命寺の将来は決して明るいものではないということが分かります。もちろん何度も言うように、人々がお寺なんて要らないというのならそれまでのことです。でも寿命寺では数年前に住職が不在になつた際、役員・総代を中心に住職候補探しに奔走されました。また婦人会が中心となつて無任の寺をきれいに保たれてきました。これらのことは寿命寺の門徒の皆さんが、お寺を必要とし、永続を願っていることの証だったのではないのでしょうか。

その結果迎え入れて頂いた私と坊守にはその願いに応えていく義務がある。そう勝手に考えています。次号以降、寿命寺とそれを支える雄琴の街を未来に繋いで行くために何をすべきか、その方策などについて考察を進めていきたいと思います。

【百回忌】大正四年
■釋道順(東條忠七)
二月四日 東條忠吉 父
■釋妙淳
六月十三日 三上久一郎 子

【五十回忌】昭和四〇年
■殉誠院釋香勲(伊藤薫)
十月一日 伊藤勲 父
■泰倫院釋好道(中川音次郎)
十二月十一日 中川直市 養父

【三十七回忌】昭和五十三年
■釋淨榮(池見雅子)
三月二十一日 池見和朋 妻
■釋清空(根岸進介)
四月十六日 中川茂治 妹の父

【三十三回忌】昭和五十七年
■正倫院釋了宣(東條五兵衛)
四月二十六日 東條重治 養父

■釋玄了(佐川輝雄)
六月十日 本人
■釋 覺道(古川一)
七月四日 古川昭雄 兄
■淨正院釋芳教(東條志か)
九月四日 東條重治 養母

【二十七回忌】昭和六十三年
■釋蓮春(三上いさ)

二月二十五日 三上靖雄 母
■釋妙超(古川みよ子)
六月十九日 古川敏夫 妻
■淨信院釋妙蓮(池見菊子)
十二月三十日 池見喜八郎 母

【二十三回忌】平成四年
■善昭院釋実念(池見長藏)
三月一日 本人
■弘誓院釋政受(三上政次)
五月一日 三上史雄 父
■釋善信(中野龍一)
七月七日 中野ムメノ 夫

【十七回忌】平成十年
■釋信證(長田信之)
五月二十日 長田幸子 夫
■釋宗淳(太田傳八)
七月二十七日 太田傳一郎 太田浩平 父
■釋幸順(河村幸次郎)
八月二十四日 河村ノブ子 夫

【十三回忌】平成十四年
■壽光院 釋静美(古川美佐子)
三月四日 古川静三 妻
■廣施院 釋善久(三上久一)
四月二十八日 三上弘也 父
■釋蓮香(前田いと)
五月三十一日 前田博輔 母
■知順院釋俊良(伊藤孟夫)

六月二十七日 伊藤庄藏 父
■釋雅亮(中西雅資)
七月二十五日 本人
■功德院釋保興(三上保一)
十二月二日 三上聖史 父
■釋幸珠(嶋貫幸紀)
十二月十八日 嶋貫恵美子 夫
■釋浩勝(船山浩幸)
十二月二十五日 船山美由貴 夫
■釋泰優(矢吹泰子)
十一月二十五日 矢吹嘉三 娘

【七回忌】平成二十年
■釋慧弥 今井弥三夫
一月六日 今井いし夫
■釋妙静(植西静子)
一月十日 植西長一 妻
■釋妙壽(高阪一壽枝)
二月二十六日 高阪進母
■釋妙美(衣笠美代子)
三月十二日 衣笠辰夫 妻
■解脫院釋義学(三上義雄)
六月二十六日 三上金司 父
■釋普照(三上伊三郎)
十月十三日 中川孝子 父
■釋勝敏(古川敏夫)

十一月十三日 古川久詞 父
■釋利聖(池見利一良)
十一月十四日 池見隆志 父
【三回忌】平成二十四年
■最勝院釋正覚(横尾正人)
七月十一日 横尾宮子 夫
■釋尼惠證(田中志ま)
九月二十二日 田中正浩 祖母
■釋成海(三上成子)
十月二十二日 棚田之子 母

【一周忌】平成二十五年
■釋長養(植西長一)
九月二十五日 植西藤子 父
■三学院釋正信(三上政次)
十月十八日 三上曉男 父

※右は過去帳の該当年の記載を全て書き出したもので、既に法事を済ませられたものも掲載しています。あしからずご了承ください。※個人情報に該当しますので、本紙の取り扱いには十分ご注意ください。

【壽命寺 今年の予定】

- *1/1 元旦会
- *2月下旬 婦人会総会
- *3月下旬 総会
- *4月上旬 壮年会総会
- *5/11 永代経・蓮如上人 500回遠忌法要
- *5月下旬 婦人会降誕会
- *7/13 滋賀組十六日講
- *8/15 孟蘭盆会
- *10/25-26 報恩講
- *12/31 除夜会

上記詳細やその他の情報は随時下記ウェブサイトでご確認ください。